

早 稲 田 大 学

図 書 館 紀 要

第 30 号



ジョンストンの教訓

奥 島 孝 康

レファレンスのパイオニアであるジョンストンの挫折は、およそ図書館人であるかぎり、誰もが知っている有名な史実であろう。この話は、古い組織・慣行へ新しい機能・秩序を導入する際の教訓として、語り継がれてきている。

いかなる組織も、権威とか伝統とかが確立してくと、その時点から急速に保守化ないし硬直化が始まる。図書館についても例外ではない。したがって、それを動かそうとすれば、当然、摩擦や抵抗も大きい。図書館が本質的にサービス機関であるだけに、事は重大といわねばならない。

ジョンストンの挫折は、心ない人たちの仕事である。しかも、それが思慮深きはずの人たちの集団による思慮なき仕打ちであるだけにおそろしい。だが、腐敗するのはなにも権力だけではないのである。図書館が大きく様変わりしようとしているおりから、他山の石として心すべきであろう。

1989 年 3 月